

1, ねらい

- ・歌や踊りを通じて友達とのコミュニケーションを図り、英語に親しみをもつ。
- ・ネイティブの講師による英語指導の中で英語や外国の文化について知る。

2, 活動のために準備した道具、環境設定

ハロウィンモチーフの絵カード、単語の絵カード、CD、人形

3, 活動の様子

・はじまりソング

音楽に合わせて全員で挨拶をする。

振り付きの歌のため、子どもたちも大きく身振り手振りしながら歌っている。

・絵本

黒いダックスフントが登場し、体の長さが他の登場人物に合わせて変わっていく。

講師は体の長さに合わせて単語「長い＝Long」を何度も繰り返す。短めの際は1回、長いときは2回、3回と繰り返す。

本を読み進めるうちに単語が増えていくことが分かった子どもたちも徐々に合わせて発音するようになる。

・ハロウィン絵カード

かぼちゃ、魔女、おばけの絵カードに合わせて身体表現をする活動

「かぼちゃ＝パンプキン」が出るとジャンプ

「魔女＝ウィッチ」が出るとしゃがむ

「おばけ＝ゴースト」が出ると1回転(スピン)

先生が絵カードを出す際に口で効果音をつけているため、子どもたちも注目している。

・単語の絵カード

「寝る＝スリープ」と「起きる＝ウェイクアップ・グッドモーニング」を実際に子どもたちが寝転がったり、講師の合図で起き上がったたりしながら繰り返し声に出してみる。

最後に落ち着いた状況で出てきた単語の確認も講師が行う。

・グッバイソング→じゃんけん

いつもの歌ということもあり、子どもたちも歌詞を覚え、たどたどしい発音ではあるが声に出して歌っている。最後に、じゃんけんを行い講師との勝負や触れ合いを楽しんでいた。

4, 振り返り

- ・季節に合った活動(今回はハロウィン)を取り入れることでいつも以上の期待に繋がっていた。

- ・講師は最後まで英語しか用いないが、子どもたちの注目を引きたいときや態度を注意したいときにはあえて声を出さずに、身振り手振りでアピールするなどしていた。また、子どもたちが理解していないようなときは繰り返し発音することで一緒に声に出したり、行動したりすることを促すことで、日本語を使わずに興味を引き出すことが分かった。

- ・講師は毎回、名前の付いた人形(今回はサルのボブ先生)を連れているが、絵カードに出てきた単語と

同じ動きを人形が行うことで、絵を見せるだけでなく動作を伴った理解を促していたことから、人形など子どもたちの目を引くものを使うことの有効性に気付いた。

- 担任も一緒に活動に参加したり、声に出して単語を発音したりすることで子どもたちの理解につながっていた。
- 「はじまりソング」と「グッバイソング」は4月から毎回歌っていることもあり、はっきり声に出して歌っている子が多かった。繰り返し継続することで身に付くことがよく分かった。
- 参観日を通して、保護者へ子どもたちの英語の取り組みが見られる機会を作っている。

